を作り、同人雑誌「線」を発刊」（『プロレタリア美術史』岡本唐貴・松山文雄編著。一九七二年九月重版、造形社）という発言を裏付けるものであって、相互の影響関係が把握できるからである。『線』は松本竣介らの作家活動において重要な意味を持つものであり、内容については山口泰二著「松本竣介とプロレタリア美術運動――新発見の『線』創刊号を中心に――」（『美術運動』第一二〇号、一九八九年二月）などの研究があるので敢えて再言を要しないが、彼らの活動が本校の近代芸術研究部のそれと一脈つながるものであったことは、これまでの研究では見落されていたことであった。

### ⑥ 女子生徒（ラギー・ゾルフ）

昭和三年三月、ドイツ大使ゾルフの娘ラギーが一時入学した。年報の「将来施設上重要ト認ムル件」に記されているとおり、本校はたび重なる女子部設置要求にも拘らず認可が得られず、女生徒に門を閉ざしていた。ただし、明治期においてジョセフィン・ハイド、マリー・イーストレーキ、ハイエット・デリンジャー等の欧米人女性を特別に受け入れており、今回もその例に倣ったものである。当時の教務関係書類に

通知〔昭和三年一月十日立案〕

独乙大使令嬢　ゾルフ・ランコ

右西洋画実習見学ノ為当分之間長原教授担当ノ西洋画科第一年級教室ニ出入許可相成候ニ付右御含置相成度候也　教務掛

各掛御中

と記録があり、「ランコ」はラギーの日本名と考えられる。

ラギーの入学は新聞に格好の話題を提供し、本校校門をバックにした彼女の写真が数紙の紙面を飾った。同月十八日の『東京日日新聞』は次のように報じている。

美術學校に咲く異國の花一輪

ドイツ大使の令嬢が繪の研究に

この十一日から女禁制の上野の美術學校に毎日姿を現す上品なドイツ美人　見るからにけだかく勿論モデル女ではない、荒くれの學生連中も一目おいてゐる始末

この美人こそ駐日ドイツ大使ゾルフ氏の令嬢、歌舞伎通として知られるラギー（一九）さん

嬢は大の日本趣味、數年前から日本畫の研究を續けてる外藤間政彌氏について舞踊も研究、過ぐる年の夜會の時に奴〔ママ〕道成寺で喝采を博したこともある

來朝以來八年、日本趣味も大體つくし故國で習得するひまのなかった西洋畫を思ひたち、見學生といふ名目ではあるが美校の長原孝太郎氏の下で專心研究することとなつた

大使も元來女性の入れない學校に特に入れて貰つたことを深く感謝している。

ラギーは同年十月のゾルフ大使帰国と同道したことが考えられる

から、本校への入学は飽くまでも臨時の、しかも短期間のものだったと思われる。なお、ゾルフ大使と正木直彦とは当時日独文化協会が進めていた日本絵画展（ベルリン）開催の件で時折り接触があった。ゾルフ大使は美術愛好家で、特に浮世絵版画の蒐集に力を尽くしていた（昭和三年四月十六日『東京日日新聞』所載ゾルフ談「東洋芸術所感」）。ただし、正木の『十三松堂日記』には「〔同年〕十一月四日〔中略〕共樂倶樂部にゾルフ大使の賣立ありと聞きて見物に行く我樂多物計也」とある。

### ⑦ 即位御剣装飾製作

昭和三年十一月十日、昭和天皇即位礼が挙行されたが、即位御剣の装飾は本校が担当した。正木校長自らが製作監督にあたったため、彼の『十三松堂日記』にはこれに関連した記述が多い。左に主要な記述を抜粋する。

〔昭和二年〕

七月十一日　晴　出勤　松平頼平子爵來訪あり　明年御大禮に御使用可相成御卽位式御劒の拵御新調相成事に御治定　御劒は後鳥羽院勅作を御用ゐのよし　御拵の製作を美術學校に下命の事も決定せるよしを傳へらる　從來は御卽位式御劒は其都度御製作ありしか今度御新調あれは萬代不易と御治定のよしなり　夫故事は重大となるなり〔下略〕

七月十五日　晴　午前十時赤坂御所に侍從職木下書記官を訪ひ松平子爵と共に面會　木下氏より御卽位御劒拵一式を東京美術學校に委囑するよしの挨拶あり〔下略〕

七月十八日　晴　午前九時に宮内省に出頭　侍從職に於て松平頼平子爵の扱にて御寶器上皇日御座御劒を拜觀したり　こは此度御卽位御大禮行はせらるゝに付御佩用御太刀は歴朝其都度御製作なりたるを此度は帝室御傳寶後鳥羽院御製菊の御作乃太刀を日御座御劒の形式を以て裝飾し萬代不易の御儀刀と御治定相成たるにより其拵全般を美術學校に下命せられたるにより教授清水龜藏　渡邊啓三　白銀師丸尾雪太郎を伴ひて御劒を拜見す　今日は始て菊の御作を手に執りて拜觀することを得たり　正午學校にゆきて道明新兵衞を呼出して紫革帶繼平緒の製作に付き協議する所ありたり〔下略〕

八月八日　晴　宮内省侍從職に至りて日御座御劒明治大帝御佩劒を拜見す　今度製作を拜命したる御卽位御劒の參考にせん爲明也　清水　六角　渡邊諸教授　丸尾道二氏を伴ひ行きたり〔下略〕

八月二十八日　晴　日曜日　渡邊香涯氏御卽位御太刀圖案を携示す

九月八日　大雨　〔中略〕午前十時赤坂御所に參候　御卽位式御劒御拵製作の圖案を提出　一木宮内大臣　松平頼平子爵　木下事務官　甘露寺侍從　河井皇后宮大夫と協議決定す〔下略〕

十月一日　晴　出勤　午前九時より師範科手工教室中の一室を卽位御劒裝製作場と定むる爲に五條天神宮司を請して御祓を行ふ　此關係者は校長　渡邊〔香涯〕清水〔南山〕六角〔紫水〕教授　丸尾專太郎　道明新兵衞　松田權六　山崎覺太郎　福田三